

平安時代の装束

① 弘法大師

※ 四国を修行にいた
時の衣冠を
もとにしていす。
(唐に行く前)

X 金剛杵

とは限らないが主
修行僧
といえる

X 木杵

た28cm x 6cm
杵を5回くる
首かけがこれ



おひらか
箱笠

かぶらないときは
背中に

麻の衣 (7分黒)

知法衣 (黒?)

(1丁) 紐
茶色

2連の念珠
茶色

麻の衣

白

白い足絆

かぶつは履袋 (夏ははき)



トル

② 男性(成人) 百姓など



蓑烏帽子
女之冠

麻のうす布
基本黒
前後左右にありまたけのり

※平安時代は人前では成人男子が
履きたすのは庶民では非礼だとい

簡素な小袖

五分袖みかん色

麻 グレーなど
ブルー

腰巾着という短かい
もの

おぼろのあつた
はかま

麻 色は不明
パーシツとか

足袋はかたさうじ

農作業はトコソウリ
(くわいり)



髻もどき
〔おみずり
重直に4行

草(茅)



たやぶり
5月に
白い毛の死
かた
たまの葉に
(今はたてあけ)

鉄+木
今とほると
同じ

りね
ゆわい

備中



色は 子持のあ
りかた

③ 女性(成人)と子供



① 麻の小袖
淡黄色(黄カクレ)
など汚れが目立たない

② 無し
半ズデキだった
A向着もあり
おはあしは
足をかぶる
らしい

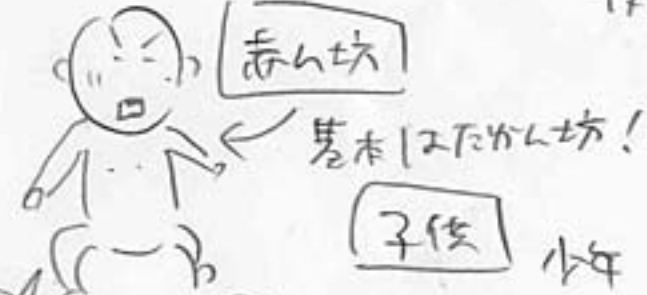
① 麻の小袖
② 無し
③ 巾着(かぶさし)
④ 短かみ(かぶりはなし)

*手ぬぐいはもめんなので
貴重品のため庶民は使えない

↓
他の布でほかざりなど
をしていたのか?
夏に = 布はくまいいなり



主に汗かきかき
ニオイが...
といる



基本は赤ん坊!

赤ん坊
= 赤い毛
しんぱん



① 無し
② 無し
③ 無し
④ 無し